

# 博物館ニュース

MUSEUM NEWS



## 眉山山中に残る沢の祠

(徳島市八万町柿谷)

ここ4年ほど、博物館友の会有志のみなさんと、博物館のご近所徳島市八万町を歩いています。友の会の皆さんが発案した「八万町の昔を探ろう」という企画です。歩くたびに地区の歴史を知り、驚かされることも多いのですが、上の写真はそんな中でたまたま出遭った祠の1つです。

八万町柿谷地区の集落北側にあるため池を通り過ぎ、さらに沢沿いに10分ほど登ったところにありました。沢の中のひときわ大きな岩の上に、石でつくられた祠が立てられています。水神さんだそうで、柿谷地区のため池や用水に流れ込む沢の中にあります。今はツタで覆われ、お祀りする人もほとんどいないようです。

宅地化が進む八万町ですが、山中ではこんな祠を見ることができます。この祠から、かつての里山を含む生活領域の広さと、山から注ぐ水が強く意識されていたことを教わりました。

(民俗担当：磯本宏紀)



## わがやのぞうに

—博物館Vキング「博物館冒険ツアー」の成果から—

庄武 憲子

### 1 雑煮について

正月につきものの食べ物のひとつに「雑煮」があげられるかと思えます。正月に雑煮を食べるといふ習わしは、慶長8年（1603）の『日葡辞書』に、「ザウニ」は正月に出される餅と野菜とで作った食物、と記されていることなどから、17世紀初頭には定着していたものと考えられています。

この雑煮については、日本全国それぞれに地方色のあることが知られており、各地の特徴的な雑煮が、テレビ番組や雑誌などで取り上げられているのを目にするのも多いかと思えます。全国的な傾向として、まず雑煮の汁について、醤油仕立て（すまし汁）と味噌仕立てとする地域に大別され、近畿地方とその周辺で、味噌仕立ての雑煮が多いとされています。また、雑煮に入れる餅について、西日本では丸餅を、東日本では伸して四角に切った角餅を使うことが多いと言われています。このほか、おとなりの香川県では、雑煮にあん入り餅を入れることがよく知られています。

では、徳島の雑煮にはどのような特色があるのでしょうか？

### 2 「博物館冒険ツアー」の「わがやのぞうに」

博物館では2005年から、博物館をより楽しく利用してもらうことを目標として、ボランティアスタッフが中心となって行う博物館Vキングというイベントを開催しています。2006年の2月12日に開催したVキングのイベントの一つ「博物館冒険ツアー」では、わがやのぞうにと題して、参加者に自分の家の雑煮について答えてもらうという企画を盛り込みました。楽しみながら自分の家や徳島の習わしについて振り返ってみようというスタッフのアイディアによるものです。実際行って見たところ、多くの方が興味を持ってくれたようで、よその家の例と比べながら、和気あいあいと自分の家の雑煮について答えてくれました。

### 3 「わがやのぞうに」のデータ

これまで、徳島の雑煮の特色については、白味噌仕立てで丸餅を入れる例の多いことが言われています。けれども、近年では地域を越えての人の交流は当たり前になり、各地の習わしは混在しています。加えて食生活はどんどん変化しています。徳島の雑煮の現状がどうなっているか気になるころではないでしょうか。「わがやのぞうに」を行った結果、大まかではありますが、雑煮について300件を超える情報が集まりました。徳島（厳密に言えば徳島市を中心とした地域）の雑煮の現状をうかがうことができるのではと思い、結果を集計してみました。以下、その紹介をしたいと思います。

「わがやのぞうに」では、雑煮の汁、餅、具の3項目についてアンケート形式で答えてもらいました。382の回答があり、うち徳島県内在住者からは、343の回答がありました（表1）。

徳島県内在住者の回答から、まず雑煮の汁について見ていき

たいと思います。答えの選択肢に、白味噌、赤味噌、合わせ、すましの4つを設け、それぞれ自分の家の雑煮に該当するものを選んでもらいました。その結果は、白味噌との回答が最も多く161、ついで合わせ90、赤味噌62、すまし25となりました（図1）。

表1 わがやのぞうに回答者居住地内訳

徳島県内在住者	徳島県外在住者
徳島市 189	香川県 5
阿南市 34	愛媛県 5
藍住町 24	兵庫県 5
小松島市 18	大阪府 5
石井町 16	神奈川県 3
鳴門市 15	奈良県 2
北島町 10	東京都 1
吉野川市 10	静岡県 1
阿波市 7	長野県 1
上板町 5	愛知県 1
美馬市 4	広島県 1
勝浦町 3	岡山県 1
東みよし町 2	福岡県 1
板野町 2	地域不明 7
那賀町 1	合計 39
松茂町 1	
徳島県内(市町村不明) 2	
合計 343	
総計	382

つづいては、雑煮に入れる餅の種類です。丸餅、角餅、あん入り餅という3種類の選択肢の中から該当するものを選んでもらいました。結果、丸餅が圧倒的に多く259、つづいて角餅70となりました。このほか、あん入り餅との回答が5、また、丸餅と角餅とした例が2、丸餅、角餅、あん入り餅すべてと答えた例が1ありました（図2）。

三つ目に雑煮に入れる具についてです。これについては、餅以外に入れる具について、その名称を列記してもらいました。各具材について記された回数を集計し、多い順に並べてみたところ、一番多かったのがダイコン、ついでニンジン、ハクサイ、サトイモの順となりました（表2）。

#### 4 新たにわかったこと

以上まとめて見ると、徳島市を中心とした地域で食べられている雑煮は、汁については白味噌仕立て、入れる餅については丸餅、具についてはダイコンが最も多いという結果が得られました。これまで言われてきた徳島の雑煮の特色を再確認す

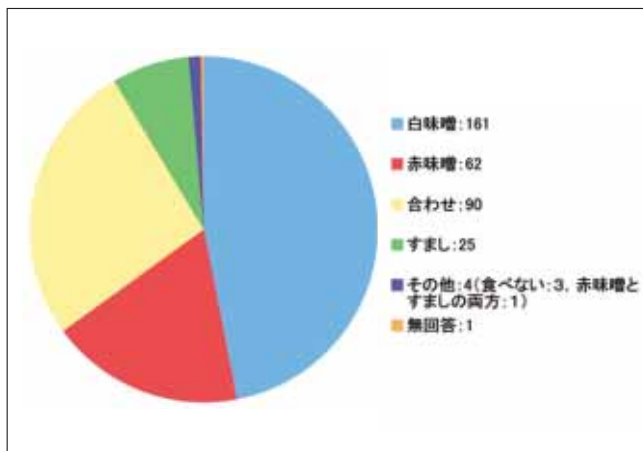


図1 雑煮の汁についての回答

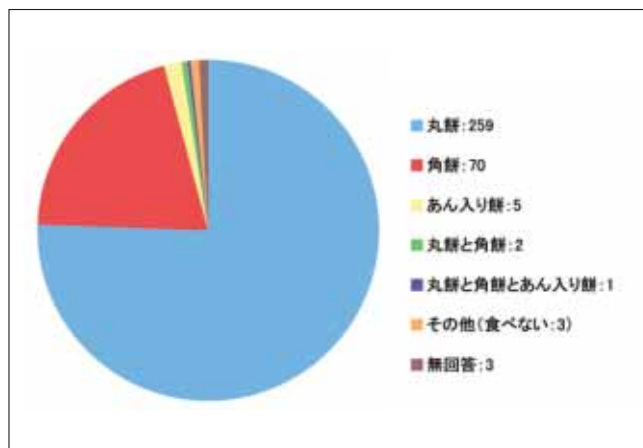


図2 雑煮の餅についての回答

ることになりました。

一方、新たにわかったこともありました。例えば、雑煮の具についてですが、「マナ」あるいは「まな」と書かれた回答が徳島市で3、藍住町で1、上板町で2件ありました。目にした時、私はこの「マナ」が何を示すかわかりませんでした。急いでいろいろな人に確認してみたところ、県内には、一般的に「コマツナ（小松菜）」と称している野菜のことを、「マナ」と呼んでいる地域のあることを知りました。

その他、紹介するべき話題、検討を要する問題がありますが、現在、多くの人に参加してもらえた「わがやのぞうに」で得た成果を、よりいっそう徳島についての知識を深める成果につなげたいと考えているところです。

（民俗担当）

表2 雑煮の具についての回答

具材名	回数
ダイコン	194
ニンジン	174
ハクサイ	106
サトイモ	89
ネギ	35
ホウレンソウ	23
カマボコ	23
コマツナ (マナ6を含む)	21
トウモロコシ	19
アブラアゲ	13
シイタケ	12
鶏肉	9
野菜	6
ゴボウ	6
ブリ	5
ワカメ (若布)	4
菜っ葉	4
チクワ	4
芋	4
レンコン	3
ヤマイモ	3
ミツバ	3
ミズナ	3
ハンペン	3
肉	3
シュンギク	3
カツオブシ	3
ユズの皮	2
コンブ (昆布)	2
カキ (牡蠣)	2
貝	2
エビ	2
アズキ	2
青のり	2
緑の野菜	1
豚肉	1
ナルト (鳴門)	1
トマト	1
タマネギ	1
ジャガイモ	1
サツマイモ	1
魚	1
ぎのこ	1
ウィンナー	1
アナゴ (穴子)	1
なし	11
無回答	8

【参考文献】

福田アジオ他編（2000）『日本民俗大辞典下』 吉川弘文館  
 「日本の食生活全集 徳島」編集委員会編（1990）『聞き書 徳島の食事』 農山漁村文化協会



# 絶滅危惧種の保全—環境との関係の探り方—

絶滅のおそれのある生き物を守るための試みが、いろいろな場所でなされています。その方法は様々で、決まったやり方というものはありません。対象生物の種類や生息地の状況、そしてその生物に係わる人間の側の事情によって様々だからです。しかし、それでは何でもやればよいかというと、そんなことはありません。原則はただ一つ、「対象生物が減った原因を明らかにして、その原因を取り除いたり、影響を和らげる」というものです。

それにはまず、生物と環境との関係をきちんと理解しておくことが前提となります。対象生物が生息するために必要な条件を探らねばなりません。これなくして必要な保全対策を立てることはできないからです。

ところがこれが一筋縄ではいきません。「環境」と一言でいうのは簡単ですが、その中身はたいへん複雑です。たくさんの要因が複雑に絡まり合っているのが環境だからです。その複雑な要因間の関係を解きほぐしてやる必要があるのです。一例として、私が関わっている希少淡水魚カワバタモロコと環境要因との関係の調べ方をご紹介します。

まず、適切に配置された調査地点ごとに、カワバタモロコを含む魚類の生息を採集調査により調べます。それと同時に、生息場所である水路の形状や水質を測定します(図1)。この調査では3期にわたり、延べ358地点において20種類の環境項目を記録しました。

次に得られたデータをもとに、統計学的手法を用いて解析します(図2)。調べた20項目から33



図1 カワバタモロコと調査の様子。調査地点ごとに魚類相とさまざまな環境項目を調べる。

個の変数を作り、この中から有望そうな変数を選択(U検定)したあと、ロジスティック回帰分析と因子分析を用いてカワバタモロコと環境との因果関係のモデルを作りました。しかし、この段階では、モデルは単なる仮説なので、最後にSEM(共分散構造分析)という手法を用いてモデルの確からしめの検討を行い、不十分ならモデルの改良を行います。ここでは約8,000通りのモデルのバリエーションを調べました。その中から選んだ最良のモデルが図3の関係図というわけです。調べた項目の数は多いのですが、最終的には影響の大きい最小限の項目(変数)に絞り込まれています。

このようにして希少生物と環境との関係を探っているのです。(動物担当：佐藤陽一)

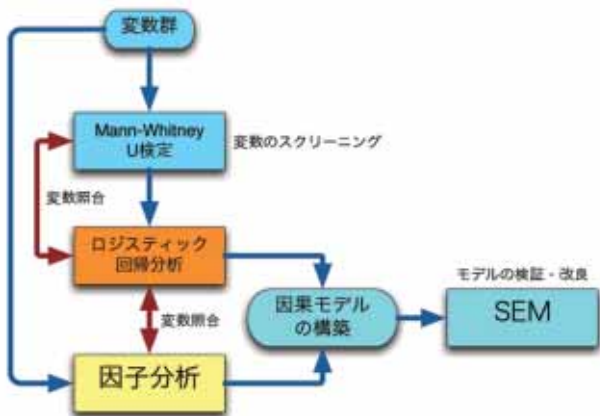


図2 調査結果の解析の手順の例。

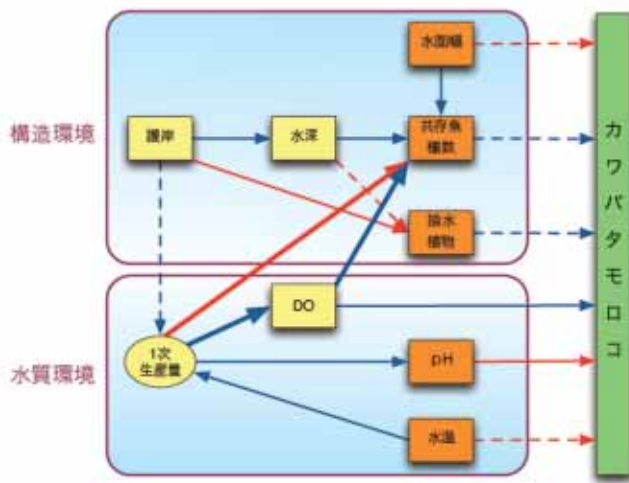


図3 カワバタモロコの生息に係わる環境要因の解析結果の例。環境項目間の関係を矢印で示し、線の種類・太さが影響の強さを、色が影響の方向(青：正、赤：負)を表している。

# 特別陳列 徳島城下町の世界

江戸時代の城下町徳島については、近年、色々な方法によって調査がすすめられています。古文書や絵図などをていねいに読みとき、発掘された遺構や出土品を丹念に調べることで、かつての城下のありさまが、具体的にいきいきとわかるようになってきました。

この特別陳列では、当館所蔵の城下絵図と、幕末の徳島二軒屋で焼かれた庸八焼をおもに展示します。展示品のほとんどは、当館が文化の森に開館して以来はじめての一般公開となります。みなさんにとって、身近な町の歴史を知るひとつの機会になることでしょう。

## おもな展示構成

### (1) 城下絵図の世界

- ・阿波国大絵図
- ・徳島城絵図
- ・徳島城下町絵図
- ・徳島御城下切絵図

### (2) 陶匠 富永庸八

- ・阿波国での庸八焼
- ・讃岐国での庸八焼
- ・庸八の交友



徳島御城下絵図



庸八焼 はまぐり形置きもの



庸八焼 富士画黒茶碗



庸八焼 松尾芭蕉像

- 会期 平成20年1月17日(木)から3月2日(日)まで
- 休館日 月曜(ただし2月11日は祝日につき開館し、12日が休館)
- 会場 博物館1階 企画展示室
- 観覧料 無料
- 展示解説 平成20年2月3日(日) 午後1時30分~2時  
企画展示室にて当館学芸員が展示品について説明します。

# クロマダラソテツシジミ

「ソテツが枯れてしまいそうです」、「学校の校門や校庭の隅にあるソテツで小さなチョウが大発生しています」、このようなニュースが鹿児島から寄せられたのは2007年7月ごろのことでした。徳島ではソテツそのものがそれほど多い植物ではありませんが、九州や南西諸島などにはよく見られる植物で、公園や学校、役所などにはシンボリックに植えられています。

硬いソテツの葉を食べる昆虫というのはそう多いものではありません。しかし、新芽は非常に柔らかく、ソテツシジミ（シジミチョウ科）のなかまの幼虫の食草となっています。

ソテツシジミのなかまは、ハネを開いたときの大きさが3cmくらいの小さなチョウで、東南アジアに数種が分布しています。日本では沖縄県の八重山諸島で偶発的に発生した記録がありますが、九州本土での発生というのはこれまでまったく記録がありませんでした。

今回、鹿児島県で発生が確認されたのはクロマダラソテツシジミという種で、タイやフィリピンなどを中心に分布する種でした。ところが、次第に分布を拡大し、1980年代後半には台湾に入り込み、その後定着しました。与那国島や石垣島などでも数年前に発生した記録があり、2006年の秋から2007年の春にかけて、石垣島では北部を中心に発生していることが知られていました。

しかし、沖縄本島や奄美大島などでの発生の情

報がないままに、いきなり鹿児島県本土での発生が確認され、皆驚きました。もしかしたら人が持ち込んだのではないかと疑われましたが、そのうちに沖縄本島や奄美大島などでも発生していることがわかり、どうやら季節風などに乗って自力で飛来したのであろうということになりました。

図1は、クロマダラソテツシジミのメス成虫で、鹿児島県庁の庭にあるソテツの新芽に産卵中の個体を採集したものです。新芽に産まれた卵は3日ほどで孵化します。幼虫の成育速度はきわめて速く、一世代は20日程度であると考えられます。

成虫はソテツの新芽を求めて広く分散するようで、付近にソテツがない場所でも、いろいろな花で吸蜜しているのが観察されました。とはいえこれも夏の話です。秋から冬へ向かって越冬態を持たない南方系のチョウが、はたしてこの先どうなっていくのが興味深いことです。

（館長：大原賢二）



図1 クロマダラソテツシジミのメス。



図2 ソテツに静止するクロマダラソテツシジミ。



図3 ソテツの新芽を食べる幼虫。



図4 多数の幼虫に食害されたソテツの新芽。



# 遺伝子汚染って何ですか?



人の活動によって持ち込まれた生物の遺伝子<sup>いでんし</sup>が交雑<sup>こうさつ</sup>することによって、もともとあった生物に広がってしまうことがあります。このことを好ましくない現象の意味を込めて、「遺伝子汚染<sup>おせん</sup>」と呼びます。この言葉は学術用語としてはふさわしくないなので別の用語を提案する人もいます。

シオギクは徳島県と高知県など、四国の南東部の海岸に生育する菊(キク属)の多年草です。野生菊の中でも、花びらのように見える舌状花弁<sup>ぜつじょうかべん</sup>を持たないのが特徴です(図左)。ところがシオギクの自生地ではしばしば舌状花弁を持ったものが見られ、雑種であると考えられます(図右)。徳島県ではリュノウギクという野生菊と接してシオギクが生育している場所もあるので、両種の雑種の可能性もありますが、近くにそれがない場合、栽培している菊との間にできた雑種であると考えられます。菊は他種との雑種ができやすく、野外の地蔵<sup>ぼくら</sup>や祠に生けられた栽培菊の切り花の花粉が昆虫によって運ばれて野生菊と交雑している例が報告されているほどです。

高知県の室戸岬の海岸にはシオギクの大きな集団があります。ところが、地元の人が観光に来た人のためにと、室戸岬にはもともとなかったノジギク(高知県西部に分布)を植えたために、シオギクと雑種を作ってしまいました。駆除しようと雑種を抜く努力を毎年しているそうですが、一旦

入り込んだものはなかなか取り除くことはできず、今でもしばしば舌状花弁を持ったものがシオギクの群落内に見られます。

こうした交雑による遺伝子の混ざり合いが「汚染」という言葉で表現されるのはなぜでしょうか? そもそも、野生の植物において異なった種が交雑することによって新しい種が分化することはしばしば見られます。それは長い年月をかけて分化してきた生物の歴史を反映した結果です。ところが人為的な影響<sup>じんいできえい</sup>による遺伝子の混ざり合いの場合では、そうした長い時間をかけて2つの種が出会うというプロセスをすっ飛ばしてしまいます。そのことがそれぞれの種にとって、また周りの生態系にどのような影響を起すのかわかりません。そこで、そうした行為は慎みましようという意味を込めて「汚染」というインパクトのある表現が用いられています。

きれいだからという理由でもともとそこになかった植物を植えることが全く悪い行為だとは言いきれませんが、身の回りに生えている野生の植物の中には美しいものもたくさんあります。そうしたものに目を向け、もともとあるものを利用することで自然に対する影響を押さえ、自然とうまくつきあっていきたいものです。

(植物担当: 小川 誠)



舌状花弁のないシオギク(左)とシオギクと栽培菊との間にできた舌状花弁のある雑種(右)。

# 1月から3月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	対象(定員)
歴史体験	ベーゴマをまわしてみよう	1月20日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(30)
	七輪で鍛冶ごっこ	2月3日(日)	13:30~16:30	小学生から一般(20)
	古代の乳製品をつくろう	2月17日(日)	13:30~15:00	小学生から一般(20)
歴史散歩	古墳見学②(現地集合)	3月16日(日)	10:00~15:00	小学生から一般(40)
	伊島を歩こう(現地集合)	3月30日(日)	8:00~16:00	小学生から一般(20)
室内実習	ミクロの世界-電子顕微鏡で昆虫を見よう①-	1月27日(日)	10:30~12:00(午前の部)	小学生から一般(10)
		1月27日(日)	13:30~15:00(午後の部)	小学生から一般(10)
	アンモナイト標本をつくろう	2月10日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(20)
	ミクロの世界-電子顕微鏡で植物を見よう②-	2月17日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(10)
	ミクロの世界-電子顕微鏡で昆虫を見よう②-	3月2日(日)	10:30~12:00(午前の部)	小学生から一般(10)
		3月2日(日)	13:30~15:00(午後の部)	小学生から一般(10)
ミュージアムトーク	写経が語る中世の社会	1月19日(土)	13:30~15:00	一般(50)
特別陳列関連行事	特別陳列「徳島城下町の世界」展示解説	2月3日(日)	13:30~14:00	小学生から一般

- ◎ミュージアムトークと特別陳列関連行事は、申し込み不要です。その他の行事は、往復はがきでお申し込みください。
- ◎「ミクロの世界-電子顕微鏡で昆虫を見よう①②-」の申し込みは、「午前」か「午後」の希望を書いてください。
- ◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。
- ◎行事の参加費は無料です。

## ●普及行事のお申し込みについて●

- 1枚の往復はがきには、1行事のみご記入ください。
- 行事日の1カ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- 返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
- 希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
- 原則として、参加費は無料です。

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
50 770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	(何も書かないでください)	50 □□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の 行事名 2. 参加希望者 全員名(学年) 3. 住所 4. 電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館普及課へ(電話088-668-3636)

## 博物館友の会の行事紹介

2007年9月、友の会行事「南予一泊研修の旅」を行いました。会員36名の方が参加し、有意義な研修旅行となりました。

- 第1日 内子の町並み／大洲城／和霊神社
- 第2日 宇和島城／伊達博物館／開明学校  
・民具館／愛媛県歴史文化博物館  
／臥龍山荘



愛媛県内子町の内子座にて

## 博物館ニュース No.69

■発行年月日 2007年12月1日  
 ■編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山  
 TEL088-668-3636 FAX088-668-7197  
<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp>